

事業中評価チェックリスト

| | | | | 番号 | 30 |
|---|--|------------------|--|----------|-------------------------|
| 事業名 | 土砂災害対策事業 (急傾斜) | 路線・河川 ・地区等名 | しるやま 城山2-1 | 施行 場所 | てんどうしおおあさきため 天童市大字北目 |
| 評価該当基準 | 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業 (山形県(県土整備部)公共事業評価実施要領5-(1)-イ-(ア)) | | | 実施主体 | 山形県 |
| 事業採択年度 目標年度 [当初目標年度] (過年度評価時目標) | R2 R10 [R7] (-) | 全体事業費(進捗度%) | 5.0億円 (16.2%) | 事業延長等 | 崩壊土砂防護柵工 L=290.7m |
| | | 内工事費 | 4.0億円 (0.0%) | | |
| | | 内用地・補償費 | 0.2億円 (41.8%) | 供用延長等 | - |
| | | 内測試費等 | 0.8億円 | | |
| 事業の目的(地域性・特質性) | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・城山2-1は、天童市中心部に位置する舞鶴山の南西斜面で、斜面勾配は33~40°程度、斜面下部には人家が密集しており、土砂災害(特別)警戒区域は平成23年6月に指定されている。 ・基盤岩は安山岩質凝灰岩、凝灰角礫岩が分布し、表土は薄く、一部では小規模な表層崩壊や浮石上の転石が存在する。人家に近接する斜面下部は点的に露岩しており、露出している基盤岩は強風化が進んでいる。 ・本事業により、急傾斜地の崩壊による災害から住民の生命を保護し、地区の保全を図るものである。 | | | | | |
| 事業概要(主要工事内容) | | | | | |
| 崩壊土砂防護柵工 L=290.7m | | | | | |
| 事業の実施状況 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度末時点で、用地補償の進捗率は41.8%である。 ・令和6年度は工事着手可能となる用地の優先的な取得を予定している。 | | | | | |
| 上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード) | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・第4次山形県総合発展計画 → 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり(政策の柱4) ・やまがた水害・土砂災害対策中期計画→確実で効果的な砂防関係施設の整備(4.2土砂災害対策編 取組2) | | | | | |
| 今後の事業の見通し | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・工事着手可能な用地補償を優先的に進め、早期の工事着手を目指す。 | | | | | |
| 事業を巡る社会経済情勢等の変化 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> ① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。 ② 財政状況の変化 財政状況に変化はない。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 開発等もなく、周辺環境に変化はない。 ④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者はなく、協力体制に変化はない。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象に大幅な変化はない。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 施工性、民地への影響や経済性等を考慮し最善の工法を選定しており、代替方策による必要性の変化はない。 ⑦ その他 地域住民の高齢化に伴う地域防災力の低下が進行しており、この観点からも防災施設整備が急がれている。 | | | | | |
| 事業の投資効果 | | | | | |
| (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例 | | | | | |
| 投資効果 | <ul style="list-style-type: none"> ●北目地区の人家30戸の家屋、家庭用品被害及び人的被害を軽減する。 ●市道等486mの施設被害を軽減する。 ○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感が向上する。 | | | | |
| 社会的割引率 | B/C | B/Cの代表的 な分析指標 | ・総便益の現在価値(B) | | |
| 4% | 5.7 | | 27.6億円 | | |
| 2%(参考値) | 8.4 | | ・総費用(事業費+維持管理費) | | |
| 1%(参考値) | 10.5 | | の現在価値(C) | | |
| | | | 4.8億円 | | |
| ●コスト縮減・○代替案等の可能性 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●計画時及び工事発注時に工法・資材等の検討を行い、コスト縮減に努めている。 ○斜面と家屋が近接し、待受擁壁工の施工が困難なため、崩壊土砂防止柵工が最も効果的かつ経済的な工法であり、代替案はない。 | | | | | |
| 当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄) | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・用地取得上の課題(相続関係)により過年度に想定した年度計画が困難となっている。 | | | | | |
| 評価区分 | 継続A | 評価の理由 | 目標年次に対し3年の遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力を総合的に判断し、継続としたい。 | | |

